

第六回

十四世林喜右衛門襲名記念



こじま能

野崎家所蔵の能面が彩る能の世界

能

菊慈童

林 宗一郎 改メ
林喜右衛門 他

狂言

萩大名

茂山 逸平 他



令和7年 10月21日(火)

9:30開場 10:00開演(11時45分終演予定)

たい か どう

会場 野崎家別邸 迺暇堂

野崎家3代目当主 野崎武吉郎が明治時代に建築した迎賓館は、
国の登録有形文化財に指定されています。



第六回 十四世林喜右衛門襲名記念

Nこじま能

野崎家所蔵の能面が彩る能の世界

令和7年 10月21日(火)

9:30開場 10:00開演(11:45終演予定)

会場 野崎家別邸 追暇堂

〒711-0913 岡山県倉敷市児島味野1丁目8-34



お問合せ

野崎家塩業歴史館

TEL: 086-472-2001

Mail: nozakike@mx2.kct.ne.jp

※全席自由席

※座敷での公演になりますので、前方席は座布団、後方席は椅子のご用意になります。

【ご来場のお客様へのお願い】

- ・会場内では、開演前・終演後のご歓談はお控えください。
- ・会場内での飲食はお控えください。
- ・会場内は禁煙です。
- ・場内での録音、撮影および時計、携帯電話等のアラームはご遠慮ください。
- ・他のお客様の観能に妨げとなると判断した場合は、退席をお願いする場合がございます。

こじま能、昨年も多くの方が心を寄せて下さいました。また今年も開催させていただけますこと、たいへん有難く思います。

野崎家様所蔵の優れた能面を使わせていただけての演能に、能面も喜んでくれている様であり、私もその都度の新たな出会いを楽しみにしております。

私事ではありますが、今年は拙家創始四百年の節目でございまして、これを機に当主名を十四世として名のることといたしました。名前に恥じぬ舞台創りを目指し、精進を重ねる所存にございます。

是非とも児島へお出まじいただき、能面の魅力にふれていただければと思います。

皆様の御来場を心よりお待ちしております。

観世流シテ方 能楽師 林宗一郎改メ 林 喜右衛門

野崎泰彦よりご挨拶

菊慈童の解説

谷本 健吾

能 菊慈童

シテ(慈童)

ワキ(勅使)

林宗一郎改メ

林喜右衛門

有松 遼一

笛

小鼓

大鼓

太鼓

杉 信太郎

大倉源次郎

亀井 広忠

梶谷 英樹

後見

味方 團

河村浩太郎

地謡

松野 浩行

谷本 健吾

坂口 貴信

川口 晃平

樹下 千慧

大槻 裕一

狂言 萩大名

シテ(大名)

アド(太郎冠者)

アド(亭主)

茂山 逸平

島田 洋海

田賀屋 夙生

能

あらすじ 菊慈童

中国 周の時代。誤って王の枕を跨いだ王の寵童・慈童は、鄆縣山へ配流となる。慈童は、王の形見の枕を抱きつつ、ひとり山中に取り残されるのだった。

それから七百年が経った魏の時代。鄆縣山麓から霊水が湧き出るとの報せに、勅使が現地へ派遣される。すると、山中には一軒の庵があり、中には一人の童子がいた。彼こそ、かの慈童のなれの果て。形見の枕に添えられた妙文を菊の葉に書きつけ、そこから滴る雫を飲んだことで、不老不死の身となっていたのだ。慈童は不老長寿の薬の酒を讃えつつ舞い戯れ、妙文を勅使に捧げて帝の安寧を言祝ぐのだった。

狂言

あらすじ 萩大名

地方から上洛してきた無風流な大名が、太郎冠者に勧められて萩を見物に出かけます。しかし、亭主が来客に和歌を詠むことを要求するため、大名は事前に歌を教わるのですが…。